

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 14 No.11 2012年6月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

ディメンションデータ、ビデオ会議システム運用のアウトソーシングサービス開始

ディメンションデータ(Dimension Data)は、ビデオ会議システム運用のアウトソーシングサービス「Managed Service for VCs(以下、MSVC)」を2012年2月より開始した。(取材：5月24日)



ディメンションデータ ビデオ会議システム運用アウトソーシングサービス (ディメンションデータジャパン 資料)

ディメンションデータは、売上高58億ドルのITソリューションおよびサービスのグローバルプロバイダー。2010年NTT持株会社傘下に。20年来のシスコシステムズのパートナーで、テレプレゼンス関連では、ビデオマスターグローバル認定技術プロバイダー(ATP パートナー)の認定を受けている。

同社では、ATPパートナー専任の担当者がグローバルに70名常駐しており、同社の世界51カ国のオフィス拠点とプリファード・パートナー制度を含む全165カ国でビデオ会議システムやテレプレゼンスソリューションの提供を行っている。

「ビデオ会議については、シスコシステムズが買収する前のタンバークの時代から取り扱っている。また他のビデオ会議システムメーカーの製品も顧客の要望に応じて販売してきた実績がある。社内においても、ワールドワイドに500以上のビデオ会議端末を導入し日々活用している。そういった実績と社内で培ったノウハウを基にワンストップでグローバルにソリューションを提供できるのが当社の強みだ。」(ディメンションデータ)

MSVC は、ビデオ会議システムやテレプレゼンスシステムの運用、サポート保守、ヘルプデスクを提供するアウトソーシングサービス。ビデオ会議システムやテレプレゼンスシステムには、エンドポイントからMCUやレコーディングサーバー、ゲートキーパーなどインフラ装置も含まれる。

ディメンションデータでは、IPネットワーク上に音声から動画、データの統合を行う「コンバージドコミュニケーションソリューション」を提供しているが、MSVCはそのうちのひとつのソリューションという位置づけとなる。

なお、MSVCは、2010年9月に買収したmvision社(ロンドン)が提供しているソリューションがベースとなっている。同社は、ビデオ会議システムの運用、監視、リソース管理などに実績と強みをもつシステムインテグレーター。

「MSVCは、ホスティングではなくアウトソーシングサービスだ。一般的には、導入したシステムは、情報システム部門が管理運用を行うものだが、このMSVCでは、機器の導入コンサルティングから、それに関わる情報システム部門が行う管理運用業務を含め一手に当社で受託する。これにより、お客様は、システム管理や運用の手間から解放されユーザに徹することが可能になる。」(ディメンションデータ)

アウトソーシングによる情報システム部門の負担軽減の他、ユーザの利用効率を上げることも可能になるという。

「これまで、会議途中で回線が切れるなどちょっとしたトラ

ブルでビデオ会議離れが起こっていたこともあった。MSVCではこういったトラブルが起こらないように、または、仮に発生したとしても即座に回復できるように、お客様のシステムからネットワークまでしっかりと管理運用させていただくサービスだ。安心してビデオ会議を利用していただけると確信している。ユーザの利用促進が図れ ROI の向上にも寄与できる。」(ディメンションデータ)

MSVC は、ヘルプデスクとオペレーションマネージメントからなる。ヘルプデスクでは、24 時間 265 日電話もしくはビデオ会議にてコンシェルジュ対応可能となっている。トラブル発生以外でも日常における使い方の問い合わせでも対応する。

一方、オペレーションマネージメントにおいては、日々ユーザのビデオ会議ネットワークにおいて端末あるいはネットワークの障害などが発生していないかを常に監視する。加えて、リソース管理、端末などのリモート設定や試験、レポーティングサービスなども提供している。ISDN バックアップサービスもある。

さらに、多地点接続会議の場合は、電話やメール、あるいはユーザ毎に設定されているポータルサイトから会議の予約を行うことが可能となっている。

「ワールドワイドに 2 月にサービス開始して以来、欧米では急速に採用が進んでいる。一方、アジア太平洋においては、最近香港の某企業が MSVC を導入した。アジアでは初のお客様になる。今後は、このグローバルの実績を基に、日本国内においても MSVC を積極的に展開していきたいと考えている。」(ディメンションデータ)

この他、ディメンションデータでは、今後、日本語を含めたアジア言語を拡大していくことや、ホスティングサービスの検討も行っていくという。

日本での窓口は、株式会社ディメンションデータジャパン ソリューション&プロフェッショナルサービス本部ソリューション推進部。場所は、東京都港区虎ノ門。

ロゴスウェア、Web セミナーシステムに「いいね・ビミョー」共有機能を搭載

ロゴスウェア株式会社(茨城県つくば市)は、オンライン・ライブセミナーシステム「POWERLIVE GigaCast(パワーライブ・ギガキャスト)」の新バージョンを発表。(5 月 11 日)

新バージョンでは、「気分ボタン」、ラベル付き文字チャット機能、グラフ表示アンケート種類増加、など新たなコミュニケーション機能を搭載した。



POWERLIVE GigaCast 画面例 (ロゴスウェア資料)

気分ボタンは、受講者が気持ちを主催者に伝えるためのもの。「いいね」、「ビミョー」など主催者側が好きなボタンを用意することができる。

文字チャットは、従来の文字だけの表示から、「質問」「回答」ラベルを付けて発言することができる。

なお、気分ボタンやラベルは、カスタマイズできるほか、数も増やすことができるためセミナーのニーズにあわせて実装できる。

一方、アンケートには、択一選択式に加え、複数選択、自由筆記形式が追加された。選択肢に上限はなくさらに複数アンケートを同時に実施できる。またアンケート結果は即座に円グラフ、棒グラフで表示することができ、グラフを使用した方法で参加者の意向を把握することが可能。

同時に、今回のバージョンアップでは、講師側システムの機能も大幅に強化した。セミナー開始前後や開催中に音楽や効果音、アナウンスなどを配信することができる音楽を再生する「BGM 機能」のほか、講師の配信画面と一緒に配信中の映像をモニターできる。

ソフトブレイン、営業支援システムと Web 会議システムを連携したサービスを開始

ソフトブレイン株式会社(東京都中央区)は、「e セールスマネージャーRemix Cloud with V-CUBE」の提供を開始した。(5月8日)

e セールスマネージャーRemix Cloud with V-CUBE は、同社の営業支援システム(SFA)「e セールスマネージャーRemix Cloud」と、株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)が提供する Web 会議システム「V-CUBE」を連携させたサービス。

会議の場所を選びません

eセールスマネージャーの案件リストや予備実績等の共有を行い、各事業所や出先、在宅など場所を選ばず会議に参加することができます。

意思決定のスピードが上がります

上司や技術者の遠隔同行を可能にして、持ち帰り作業を減らし、意思決定のスピードを上げることが可能です。また、活動履歴や案件状況を紐付けて会議予約をすることで、事前に案件状況の共有ができます。



e セールスマネージャーRemix Cloud と V-CUBE の利用イメージ (ソフトブレイン資料)

両システムの連携による特長としては以下の通り。

(1) Web 会議の予定に営業案件情報も紐付けて登録が行える。これにより、それぞれの会議に必要な情報(現在の案件進捗状況や課題点、過去の接触履歴など)の確認をスムーズに行え、事前準備時間の軽減ができる。

(2) e セールスマネージャーRemix Cloud のレポートやグラフをそのまま Web 会議資料として画面で共有が行える。これにより、資料を別途共有する必要がない。また、その場で見たい情報をレポートやアナライザー機能を使って簡単に作成も可能。

(3) e セールスマネージャーRemix Cloud に会議や商談スケジュールを登録する際に、Web 会議もあわせて登録できる。Web 会議はスケジュール詳細の URL からワンクリック

で参加できる。

利用料について。V-CUBE 連携設定費用は、45,000 円(税別)。月額費用:e セールスマネージャーRemix Cloud は、1 ユーザあたり 6,000 円/月から。一方、V-CUBE ミーティングは、1 部屋あたり 9,900 円/月から。V-CUBE ペーパーレスは、1 部屋あたり 50,000 円/月から。V-CUBE セールス&サポートは、基本料が 30,000 円/月。また 1 ユーザあたり 5,000 円/月となる。なお、V-CUBE 製品購入時には、製品毎に初期費用が別途 45,000 円かかる。

ブイキューブの Web 会議システム、高画質 HD に対応

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、同社の Web 会議システム「V-CUBE ミーティング」の機能強化を発表した。(5月14日)

今回、強化された主な機能は以下の通り。ユーザのサービス利用環境を向上することを目的としている。

(1) H.264 エンコードによる高画質(HD)対応。ポリコム社のテレビ会議専用端末と接続する際に、パソコン端末でもクリアな画像でのテレビ会議を実施できる。高画質を希望するケースもあったため今回対応した。(2)直感的に操作できるメインメニューのデザイン変更。(3)カメラ、マイクを事前にミュートできる機能。ユーザからの要望が多かった。(4)利用ガイドの実装。初心者でも安心して会議に参加できる。(5)会議予約時に使用するアドレス帳への一括登録機能。

なお、(1)と(2)については、新バージョンにて新規に契約した場合に利用できる。また、新機能のサービス開始は、5月16日から。

SOBA プロジェクト、SOBA CITY 向けのツールバー提供開始

株式会社 SOBA プロジェクト(京都市下京区)は、同社の無料 Web 会議サービス「SOBA CITY(ソバ・シティ)」向けにツールバー「SOBA CITY ツールバー」を開発、5月17日から SOBA CITY ウェブサイト上でダウンロード提供を開始と発表

した。(5月16日)



SOBA CITY ツールバー・イメージ (SOBA プロジェクト資料)



SOBA CITY ログイン前(SOBA プロジェクト資料)



新規セッション作成・セッション一覧閲覧例 (SOBA プロジェクト資料)

今回発表された SOBA CITY ツールバーは、SOBA CITY のアカウントを持つ友人知人同士がツールバー上でログインしておけば、いつでも Web 会議に一瞬で参加することを可能にするツールバー。機能としては、SOBA CITY へのログイン・ログアウト、Web 会議セッション新規作成、セッション一覧の閲覧などがある。加えて、Google やアマゾン、楽天市場の各検索機能も備えている。

SOBA CITY ウェブサイトにて無償ダウンロード提供。また対応ブラウザは、「Windows Internet Explore 8」「Windows Internet Explore 9」。

SOBA CITY は、Windows アプリケーションの共有も可能な無料の Web 会議システム。現在約 46,000 ユーザに利用されているという。

VTV ジャパン、H.264/SVC、H.264 ハイプロファイル標準装備のラドビジョン社製テレビ会議システムの販売開始

VTV ジャパン株式会社(東京都千代田区)は、ラドビジョン社製のテレビ会議専用端末「SCOPIA XT5000」の販売を5月17日より開始したと発表。(5月17日)



SCOPIA XT5000 (VTV ジャパン資料)

SCOPIA XT5000 は、XT シリーズの旗艦製品となる最上位モデル。デュアルストリームでフル HD 1080p/60fps を実現し、さまざまなメーカーのテレビ会議端末との混在会議を可能にするマルチベンダー対応テレビ会議システム。

品質の予測ができないネットワーク環境下でも、映像品質を高めることのできるプロトコル H.264/SVC と、効率のよいネットワーク帯域の利用を可能にする H.264 ハイプロファイルを標準装備しており、クラウドサービスを利用する際に起こりうるネットワークトラブルを解決できると同社では説明する。

加えて、XT5000 は、20kHz の広帯域音声(G.719)、内蔵 MCU 最大 9 地点接続(ソフトウェアオプション)などの特長がある。提供価格は、オープンプライス。

VTV ジャパンでは、専任技術員による自社対応保守サービスと共に提供する。なお、2011 年より、自社独自開発によるテレビ会議カスタマイズソリューションの提供も行っている。

(次のページに続く)

ジャパンメディアシステムの LiveOn、スマートフォン・タブレット端末対応など

ジャパンメディアシステム株式会社(東京都千代田区)は、Web 会議システム「LiveOn(ライブオン)」ASP 版 Ver10.0 とイントラパック版 Ver10.0i を 6 月 6 日より販売開始する。(5 月 7 日)

最新バージョンでの新機能および改良点は以下の通り。

(1)スマートフォン・タブレット端末への対応: Android(バージョン 2.2) および iOS(バージョン 4)に対応。スマートフォン・タブレット端末から LiveOn の Web 会議に参加できるようになった。また、利用可能な機能としては、会議室の作成および入室、2 拠点まで映像表示、音声通信、資料共有。ただし、スケジュール機能(ASP 版ではオプション機能)は利用できない。

(2)資料共有機能の改良: PDF 資料の共有機能を改良し、ページ移動や画面の拡大・縮小をよりわかりやすく操作できるようになった。また、共有している PDF 資料をダウンロードすることが可能になった。

(3)資料共有方法の追加: Office ドキュメントを HML ファイルに変換して共有する方式に加え、PDF ファイルに変換し共有する方式を追加した。Office 製品がインストールされていない PC でもドキュメントを LiveOn サーバ側で変換して共有することが可能になった。加えて、Office 2007 以降がインストールされている PC では自動的に PDF 方式へと変換する。

(4)会議開催メール送信方法の変更: 会議室作成時の開催メールについて、従来のブラウザ経由での送信から、メールソフトを起動して送信する方式に変更した。これにより、ユーザ ID に登録されているメールアドレス以外の任意の相手に会議開催メールを送信できるようになった。また会議室入室 URL を暗号化して改ざん等が行えなくなるようセキュリティを高めた。

(5)アクセス制御機能の追加: LiveOn にログインさせない接続元やユーザ ID の設定を行う機能を AdminTool 機能

に追加。なお、ASP 版ではオプション機能となっている。

(6)中国語対応: 従来の日本語と英語に加え、中国語にも対応した。ログイン画面の言語選択から「Chinese」の選択が可能になった。

上記の他、スマートフォン・タブレット端末への対応にあわせて、ASP サービスのサーバ構成を強化。また、イントラサーバー対応の OS について、「Red Hat Enterprise Linux 6」に正式対応した。

NTT アイティ、「マジックコネクト」と「ミーティングプラザ」の夏季限定テレワークサービス開始

NTT アイティ株式会社(横浜市中区)は、「マジックコネクト」と「ミーティングプラザ」の夏季限定テレワークサービスを 5 月 23 日より販売開始した。(5 月 22 日)



マジックコネクトとミーティングプラザによるテレワーク (NTT アイティ資料)

夏季限定テレワークサービスは、マジックコネクトもミーティングプラザも 2012 年 9 月末までのサービス利用期間となっており、短期利用しやすい特別価格を設定している。10 月以降については標準のサービスに移行することで継続して利用できるとしている。

マジックコネクトは、インターネットを経由して会社の PC やサーバにリモート接続し画面転送により PC 業務が行える。約 1,800 社で利用されているリモートアクセス製品。一方、ミーティングプラザは、3,000 社以上の導入実績を持つ Web 会議製品。

NTT アイティによると、東日本震災後、オフィスの節電対

策の一環として、夏季や冬季に限定してテレワークを実施、あるいは拡大する企業が増えており、テレワークサービスの期間限定提供の要望が寄せられていたという。同社ではこれに応えるため、マジックコネクトとミーティングプラザの夏季限定テレワークサービスを製品化した。

マジックコネクトのサービス使用料は、10,000 円/アカウント(利用開始にかかわらず、9 月末までの定額使用料)。5 アカウント単位での提供となる。エディションは、端末認証型 NDL となる。加えて、自席 PC を遠隔から起動する WOL コントローラをオプションで提供する。価格は、120,000 円/台。最大 100 台の PC を遠隔から起動できる。なお、サービス使用料が発生しないシステム製品も提供できるとしている。

一方、ミーティングプラザ BCP サービスは、初期費用は、320 アカウントまで無料。追加は、1,000 円/アカウント。また、月額基本料は、2,500 円(最大同時接続 32 拠点、基本利用時間 2 時間(利用者合計)まで)。ただし、利用者合計の利用時間が 2 時間を超えた場合は、超過分に対して 15 円/分がかかる。なお、震度 5 以上の地震等の場合、超過使用料の上限あり。詳細について同社に確認要。

ビジネス動向-国内

ポリコムジャパン、新しいブランド アイデンティティを発表



新しいロゴマーク(ポリコムジャパン 資料)

ポリコム社は、新しいブランド アイデンティティを発表。
(米:5月24日、日本:5月25日)

ポリコム社のビジョンは、ユビキタス ビデオ コミュニケーションの実現であり、この新しいブランド アイデンティティは、ハードウェアに依存しないソフトウェア戦略と、コラボレーションの素晴らしさを推進していくというポリコム社の使

命を明確にしめしているという。22 年の社史の中で初めて行った大規模なブランド刷新の集大成となる。

ポリコム社の新しいロゴマークは、ポリコムの各国の Web サイトに本日(本リリース発表日)より掲載される。さらに、今後、同社のソフトウェア製品や、テレプレゼンス、ビデオ会議システム、デスクトップソリューションも、新しいロゴマークに変更していく。

一方、公の場では、6 月中旬にネバダ州ラスベガスで開催される InfoComm 2012 にて紹介される予定。また、今夏移転予定のカリフォルニア州サンノゼの本社社屋とカスタマー エクスペリエンス センターに掲げられる。各国のポリコムオフィスとカスタマー エクスペリエンス センターでは、次の四半期以降に、新しいロゴマークに移行していく予定。

ポリコム社は、1990 年設立。1992 年に発売された音声会議システム「Polycom SoundStation」は、2011 年までの出荷台数が 400 万台以上。収益は、2011 年には 15 億ドルに達し、800 以上の取得済みまたは申請中の特許を保有。32 の製品シリーズを提供している。7000 社近くのパートナーがある。

ブイキューブ、グローバル展開を加速、英語対応サポートセンター開設、中国企業との販売代理店契約締結

株式会社ブイキューブ(東京都目黒区)は、英語対応可能なサポートセンター開設と、中国企業との販売代理店契約を発表。(5月17日)

ブイキューブは、これまでにサービスのインターフェイスの多言語化や、北米、アジアをはじめとする海外のデータセンターへのアプリケーションサーバー設置などを行い、海外拠点とのビジュアルコミュニケーションを実施する企業も増えてきたという。そこで、今回英語で対応可能なサポートセンターを開設することになった。

また、同社は、中国の Endville 社と販売代理店契約を締結した。Endville 社は、主に寧波市を中心としたブイキューブの販売パートナーとなる。3G ネットワークを利用した製品を広く展開し、チャイナテレコムとの密接な関係がある。加えて、

地方優良企業として寧波市を中心とした行政機関ならびに現地企業への強いネットワークも持っている。



5月15日開催された Endville 社の V-CUBE 製品発表会（ブイキューブ資料）

ブイキューブは、今後更に地方の主要企業との関係構築を図り、中国市場全体への大きな前進を目指す。また、V-CUBE サービスが現地企業に業務改善をもたらすように相互に協力してサービスを展開していくとしている。

同社は、今回の発表に先立ち、2012年のグローバル施策として、1月にシンガポールに R&D センターを開設、4月には、TEAM POLYCOM 2012(フロリダ州オーランド)に出展、5月には、マレーシアの現地法人を窓口とした英語版 Web サイトを公開している。これらのグローバル展開により、2012年度の海外での売上比率 20%を目指す。なお、同社サービスは、3,000社以上の企業で活用されているという。

ビジネス動向-海外

FreeConferencecall.com 社、韓国でのサービス提供開始

米 FreeConferencecall.com 社(カリフォルニア州ロングビーチ)は、同社のサービスが韓国でも利用できるようになったと発表。(5月1日)

FreeConferencecall.com 社は、2001年設立。無料の電話会議サービスを提供するサービスプロバイダー。名前とメールアドレスの登録で簡単にサービスを利用できる。月

に 1500 万から 2000 万のユーザがサービスを利用しているという。日本でもサービスは利用可能で、最近では、3月1日にメキシコでのサービス開始、5月14日ではイスラエルでの開始を発表している。

今回の韓国でのサービス開始によって、同国でのユーザは、同社が展開している他の国々への国際電話会議サービスが国内通信料金同等で利用できるようになった。また同社の事前予約なしの電話会議サービスは、最大 96 名までがひとつの会議(6 時間まで)に参加できる。また、録音サービスやフリーの国際アクセス番号サービスも利用できる。さらに、電話会議終了時には、詳細の利用レポートがメールにて提供(無料)される。

Vu TelePresence 社と Vidtel 社は、マルチベンダー対応の多地点接続サービスで提携

インドの Vu TelePresence 社と米 Vidtel 社は、マルチベンダー対応の多地点接続サービスで提携した。(5月8日)

今回の提携で、Vidtel 社の提供するマルチベンダー対応の多地点接続サービス「Vidtel MeetMe」を Vu TelePresence 社が販売するテレビ会議システム端末ユーザに提供する。これまでは、Vu TelePresence 社製のテレビ会議システムは、同社製の端末としか通信ができなかったが、Vidtel MeetMe によって、H.323 や SIP、Skype、GoogleTalk などとテレビ会議接続が行えるようになった。

Vu TelePresence 社にとって、Vidtel 社はパートナーとして戦略的に合致するとコメントを出している。Vidtel MeetMe サービスは、Vu TelePresence 社のセールスチャネルを通して販売される。

Tenhands 社、WebRTC ベースのクラウド型テレビ会議サービスベータ版発表

米 Tenhands 社は、無料のクラウド型テレビ会議サービスベータ版を発表した。(5月10日)

同社のテレビ会議サービスは、WebRTC をベースに開発されており、ポイントツーポイントから多地点(group calling)テ

テレビ会議を無料で提供するもの。また、クラウドサービスは、アマゾンの仮想サーバ上で提供されている。

同社は、2011 年設立。カリフォルニア州サニーベールに本社がある。

Blue Jeans Network 社のクラウド型テレビ会議サービス、マイクロソフトの Outlook に対応

Blue Jeans Network 社は、同社のクラウド型テレビ会議サービスが、マイクロソフト社の「Microsoft Outlook」に対応したと発表。(5 月 15 日)

この対応により、Microsoft Outlook のスケジュールからテレビ会議の開催予約や参加者の招待、会議室の設定などが Outlook の通常のスケジュール設定と同じように行えるようになる。

また、Blue Jeans Network 社のクラウド型サービスは、シスコ、ポリコム、ライフサイズ、マイクロソフト、スカイプ、Google 各社のテレビ会議システムと相互接続を可能としているため、ユーザは、参加者がどこにいて、どういった端末を利用しているのかということに気にとることなく、会議の予約設定や開催を行えるメリットがあると同社ではプレスリリースで説明している。

本プレスリリースが発表された5月15日時点ではベータ版。その翌週からサービス提供開始となっている。

Vidyo 社、遠隔医療ソリューションで AMD Global Telemedicine 社と提携

米 Vidyo 社は、米 AMD Global Telemedicine 社と提携したと発表。(4 月 26 日)

AMD Global Telemedicine 社は、遠隔医療ソリューションを世界 84 カ国において 6,800 システムを販売した実績がある。今回、Vidyo 社のビデオ会議ソリューション「Vidyo for Healthcare」と、AMD Global Telemedicine 社の「AGNES」と「tConsult」といった遠隔医療ソリューションと統合することで、遠隔医療ソリューションを利用するユーザ(医者など)が、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを通して高品質なテレビ会議システムを利用することが可能になるという。

このため、両社のシステムは、ひとつのユーザインターフェイスで提供され、そのインターフェイスから、テレビ会議の開始や医療機器などからのデータを参照することが可能になる。

Huawei 社エンタープライズ部門、米国開催 Interop にて 1080p60fps 対応次世代テレプレゼンスシステムのプレビューを実施

中国の Huawei 社エンタープライズ部門は、米国で 5 月に開催された Interop 展示会において、同社の次世代テレプレゼンスシステムのプレビューを行ったと発表。(5 月 15 日)

次世代のテレプレゼンスシステムは、第二世代の「TP3106」の後継にあたり、1080p60fps を実現している。3 台のカメラを搭載し、また、3 台のディスプレイを隣同士に並べることで 5760x1080p のパノラマビューを実現している。

このために、ディスプレイとディスプレイの間ベゼルの幅を 5.5mm に抑えた。同社によると、現在市場で販売されているテレプレゼンスシステムでは、12cm 幅ベゼルのディスプレイを採用しているところが多いとしているが、5.5mm は 20 分の 1 の幅となり自然な視覚環境を可能という。

また、高品質な音声とリップシンク技術なども採用されている。システムのコントロールは、アンドロイドタブレットで行える。その他、システムが使用する帯域や電力消費量については、従来のシステムと比較して 30%の削減を実現しており、加えて、特別に設計したメンテナンスしやすいテーブルによってシステムの部屋空間専有も、同じく従来のシステムと比較して 30%の削減が実現しているという。

同社のテレプレゼンスシステムは、2011 年 12 月現在、グローバルに 2,100 台以上導入されているという。

(次ページへ続く)

セミナー・展示会情報

< 国内 > <http://cnar.jp/cna/event-j.html>

【東京開催】「IC³」新機能とスマートフォン活用術のご紹介
セミナーWeb 会議 IC³(アイシーキューブ)最新版「Ver.8」
のご紹介

日時:06月22日(金)15:30-17:00

会場:キヤノンソフト情報システム 東京支社(天王洲アイル)

主催:キヤノンソフト情報システム株式会社

詳細・申込:

<https://www.canon-js.co.jp/seminar/detail.cfm?no=1408>

会議の効率化を実現!『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程:7月4日(水)、11日(水)、18日(水)、25日(水)

※全ての日程で13:30~14:30、15:30~16:30の2回開催

会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催:日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

< 海外 > <http://cnar.jp/cna/event-r.html>

InfoComm 2012

日時:6月9日-6月15日

会場:アメリカ フロリダ州 オーランド

主催:InfoComm International

詳細・申込:<http://www.infocommshow.org/>

*遠隔会議業界では、代表的な展示会。会議システム関係が多数展示。

定期レポート 電子ブック版

CNA レポート・ジャパンでは、毎月2回業界ニュース(定期レポート)を1999年から発行しておりますが、この度、カタログスクウェアさんに、2003年から2011年までの定期レポートを1年毎に合冊していただきました。2012年は1号毎です。

CNA Report Japan アーカイブ 電子ブック版

2003年-2011年

http://www.catalog-square.jp/cna_report/

2012年

http://www.catalog-square.jp/cna_report/2012/

定期レポート(PDFファイル)は年間23号発行されておりますが、電子ブックによって1年分を一度にダウンロードできこれまでのように1号毎にPDFをダウンロードする必要はありません。もちろん今までのPDFもアーカイブしています。

電子ブック版は、本のページをめくるようにとても読みやすくなりましたし、また1年単位ですが全文検索もしやすくなりました。定期レポートの読者の皆さんにとっても良いのではないかと思います。

ちなみにこの定期レポートは私にとっては、遠隔会議のリサーチの一環としてまとめているものでもありますし、また、私自身の活動を広げていくためのプラットフォームになっています。

カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.jp/>

*遠隔会議業界で長くお勤めされ、今年電子カタログ・ソリューションで起業された方が経営されている会社です。

*この電子ブック版についてご意見等ございましたらよろしくお願いたします。橋本宛 cnar@cnar.jp

dtc-forum、ツイッター、フェイスブック

ツイッターとフェイスブック、dtc-forumを通して遠隔会議関係のニュースなど関連情報を日々配信しています。よろしければご覧ください。

>dtc-forum メーリングリスト

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

> Twitter

日本語版: <https://twitter.com/cnarjapan>

英語版: <https://twitter.com/cnarjp>

> Facebook

「テレビ会議・Web 会議・電話会議 & ユニファイドコミュニケーション研究会」

<http://www.facebook.com/unifiedcom>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

これまで個人事業をやってきていろいろと言われたりしました。「個人事業は絶対無理だ」とか、「そんなことをやって意味があるのか」とかからかわれたり、白い目で見られたりすることもありました。

しかし、少し考えてみれば、寝食を共にする家族や長年の親しい友人であっても、誤解されたりすることがあるわけですから、会ったこともない、あるいは数回会ったぐらいの人から誤解されたりするのは普通ということがわかります。

こういったことがあると、私は「遠隔会議に対する気持ちは本気か?」と自問自答するようにしています。自分の気持ちを確かめる良い機会と考えます。

これまでやってきて気がついたことは、事業を含め何かをするにしても、一番大事なことは、その対象について本気であるということ、真正面から真摯に向き合うということです。そこが一番問われていると感じます。

もちろん、私の人生これからどうなっていくかわかりません。しかし、自分が定めた道に対して、歩み遅くまた格好悪く試行錯誤をしながらも、少しずつ日々出来ることを積み上げていくことこそとても大事なことでないか、それが本来の人間の生き方ではないか、と今までの経験から感じています。

次号もよろしくお願い致します。

橋本 啓介